



◆清陵祭 科学系クラブ、SSHも展示・発表を実施◆

《科学系クラブ、SSH コース課題探究ポスター発表展に大勢の参観者》

7月5、6日の二日間清陵祭が一般公開されました。

スーパーサイエンス（SSH）では、3学年SSHコースの生徒諸君が昨年度一年間かけて取り組んだ課題探究をポスターにまとめて発表しました。課題研究の成果は論文にまとめ、現在研究収録を作成中ですが、文化祭では、希望者にその分冊を配布しました。

県内の多くの学校で理科系クラブが部員不足で消えていく中、本校では科学系も5クラブ（物理・化学・天文気象・生物・数学）が約100人の部員を擁して活動しています。

SSHでは、科学系クラブの生徒に対しても活動の振興をはかり、成果を発表すること、いろいろなコンクールに参加するよう指導しています。



化学部の実験には小中学生が熱視線、生物部には1600人余の参観者

清陵祭当日は、化学部は来校者に楽しんで頂く科学実験の実演、天文気象部は継続研究である黒点観測の発表に加えて手製のプラネタリウムで星座の説明や本校屋上ドームに設置されている屈折型天体望遠鏡の公開を行いました。生物部は、継続研究である「諏訪湖のプランクトンの季節変動」、「なぜ上諏訪駅にカラスが集まるのか」の発表に加えて、諏訪湖周辺の魚類を中心とした水生生物の展示、準備作成に数カ月かけた



「透明標本」の展示と販売などを実施して、二日間で1600名余の方に参観していただきました。「プランクトンの季節変動」では、春と秋に珪藻類が二度増殖し、夏には藍藻の増殖が起きることを示し、春と秋の水温の低下と水界全体の循環による栄養塩類の表層への供給が珪藻類の増加の原因、夏の高水温が藍藻の急増の原因ではないかと提案していました。物理部は1か月かけて作ったルーブ・ゴールドバーグ・マシン（Rube Goldberg machine）などを展示して参観者の関心を集めていました。

SSHコースの課題探究発表会会場では、昨年度3年生の3点の学生科学賞入選作品（県知事賞1点、優良賞2点）と現3年生の作品10点を発表させていただきました。

2年生生徒が受付、3年生が自分と仲間の探究ポスターを説明しました。

数百人の方にご来場いただきそのうち255余名の方にポスターの評価アンケートを行って頂きました。上表はアンケートに答えていただいた方の評価が高い上位6点です（よくまとめられていると思う3作品を挙げていただきました。1票1点として集計しました）。地元の諏訪湖についての関心の高さがうかがわれる結果となりました。

1学年SSH情報は1学期、「地球環境問題」をテーマに、それぞれが課題を設定し、資料を検索して自分なりの分析・考察を加えたものをレポートにまとめて発表しました。発表方法は、玉川学園中学部・高等部の課題発表会の方法を参考にさせていただき、机にカラープラスチック板を養生テープで張り付け、そこにポスターを展示しました。



発表 タイトル	イオンクラ フト	諏訪湖の 菱とヘドロ は本当に 悪者か	偶然の確率 ～主観的確 率(直観) による判断 はどこまで適 切か～	スプライトの 観測と正極 性落雷の関 連～受信機 の製作と電 波観測～	コケの分布 とクマムシ の生態	フラックス法 によるルビー の生成 ～六方両錐 形結晶を目 指して～	得点合計 (%)
得点割合 (%)	8.2	16.5	14.6	13.4	9.2	14.9	100.0